

にしあいづ

2021
No.755



もくじ - Contents -

- P 2 特集1 **薄友喜町長、再選**
- P 4 特集2 **認知症とともに生きる時代**
- P 10 まちの話題
こゆりこども園スイカ割り、七タライトアップ、
福島レッドホープス公式戦 ほか



西会津町長選挙

薄友喜町長、再選

《令和3年7月18日執行》

概要

任期満了に伴う西会津町長選挙は、7月13日に告示されました。今回の町長選挙には、届け出順に現職の薄友喜氏、元副町長で新人の伊藤要一郎氏の2人が立候補し、即日開票の結果、薄友喜氏が2度目の当選を果たしました。

投票結果

投票は、午前7時から町内18カ所の投票所で一斉に始まり、午後6時まで行われました（中央投票所のみ午後7時まで）。

町民の皆さんにとって最も身近な、町の代表者を決める選挙ということもあり、各投票所には朝早くから有権者の皆さんが投票に訪れました。当日有権者数は5,242

▶期日前投票所の様子



人、投票総数は4,446票、投票率は前回より2.21ポイント減の84.81%となりました。また投票日当日に仕事などで投票できない人のために、7月14日から17日まで期日前投票所が町役場前に開設されました。ここでは投票総数の約56%、2,485人の皆さんが期日前投票を行いました。投票総数に占める期日前投票の割合は、年々増加傾向にあります。

開票結果

開票作業は、午後8時から野沢体育館で行われました。開票開始から50分後の午後8時50分に各候補者の得票数が確定し、2,333票を獲得

した薄友喜氏が再選となりました。また、開票作業の様子は町ケーブルテレビで生中継され、お茶の間に開票の進捗状況が届けられました。

◎候補者別得票数 [敬称略]

当選 薄 友喜 2,333票
伊藤 要一郎 2,066票

	当日有権者数	投票者数	投票率
男	2,553人	2,165人	84.80%
女	2,689人	2,281人	84.83%
計	5,242人	4,446人	84.81%
開票結果	投票総数	4,446票	
	有効投票総数	4,399票	
	無効投票総数	47票	

7月18日に行われた町長選挙で再選した薄友喜町長が8月5日、町役場に初登庁し2期目がスタートしました。町役場では、町民の皆さんや町職員が薄町長を出迎え、薄町長は集まった皆さんと言葉を交わしながら、拍手の中、晴れやかに登庁しました。

引き続き、町役場大会議室で就任式が行われ、薄町長が町職員を前に就任のあいさつを述べました。あいさつの内容は次のとおりです（抜粋）。

1期目を振り返って

活気ある西会津町を取り戻すため、町民の皆さんや議会のご協力を賜り、また、職員の方には多くの業務や事業に精力的に取り組んでもらいました。その結果、さまざまな公約の実現による地域力の底上げができ、高い評価をいただいていることに改めて感謝と御礼を申し上げます。

未来へ持続可能なまちに

次の時代を担う子どもたちから高齢者までが安全安心

に、いきいきと健康で活躍できる、将来にわたって持続可能なまちにするために、全力で取り組んでいく覚悟です。何か起きる、何かが変わる、そんなワクワクドキドキ感を職員の方々と体現していきたいと思っ

ています。将来に向けたまちづくりを共に頑張っていきたいと思います。

薄友喜町長略歴

昭和23年生まれ、新郷出身。喜多方商業高校（現喜多方桐桜高校）卒。昭和42年に町役場奉職、企画調整課長や参事兼総務課長などを歴任。平成20年4月からは副町長として町政執行に尽力（平成21年8月退任）。他にも、にしあいづ福祉会理事、町ボランティア活動サポートセンター会長などを歴任し、平成29年8月から現職。

当選証書交付式

7月19日には、西会津町長選挙当選証書交付式が町役場で行われました。式では、町選挙管理委員会の高濱秀道委員長が「町政を担うことは大変な重責です。明るく活力あるまちづくりの取り組みに期待します」とあいさつし、薄友喜氏に当選証書が手渡されました。なお、町長の任期は令和3年8月5日から4年間です。



▶高濱委員長から当選証書を受け取る薄氏（写真右）

この街で 笑顔で生きる 認知症



毎年9月21日は
世界アルツハイマーデー

認知症とともに生きる時代

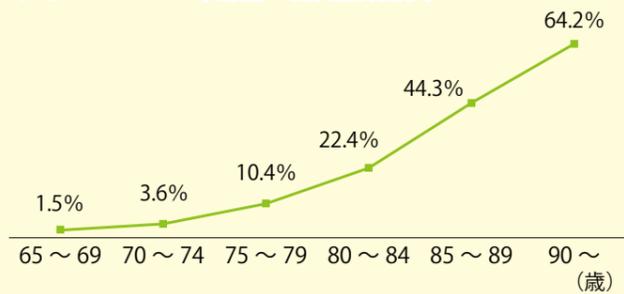
毎年9月は認知症への理解を深める「世界アルツハイマー月間」、9月21日は「世界アルツハイマーデー」です。

高齢化が進む日本では、これからますます認知症の人が増えると言われています。町では、認知症になっても安心して暮らし続けることのできる社会の実現に向けて取り組んでおり、なかでも広く地域の皆さんに認知症への理解を深めてもらうことに力を入れています。皆さんは認知症に対してどの程度理解できているでしょうか。今月号では、知っているようで知られてない認知症について紹介します。

グラフ1-A 認知症の現状と将来推計 (全国)



グラフ1-B 年齢別の認知症有病率



出典：厚生労働省老健局「認知症施策の総合的な推進について」

認知症は誰でもなり得る可能性がある
のある身近な症状のひとつです

国の調査では、65歳以上の高齢者のうち認知症を発症している人は、令和2年(2020)で631万人に上り、令和7年(2025)には700万人を超え、5人に1人、令和42年(2060)には1千万人を超え、3人に1人が認知症を発症すると推計されています。(グラフ1-A・B参照)

認知症とともに生きる
共生社会の実現に向けて

認知症は誰でもなり得る可能性があります。これからますます家庭や地域で認知症の人と接する機会が増え、認知症とともに生きる時代が到来しています。「認知症だから…」と目をそらすのではなく、一人一人が自分ごととして捉え、地域で支え合うまちづくりが求められています。

認知症理解の第一歩は「正しく知る」ことから

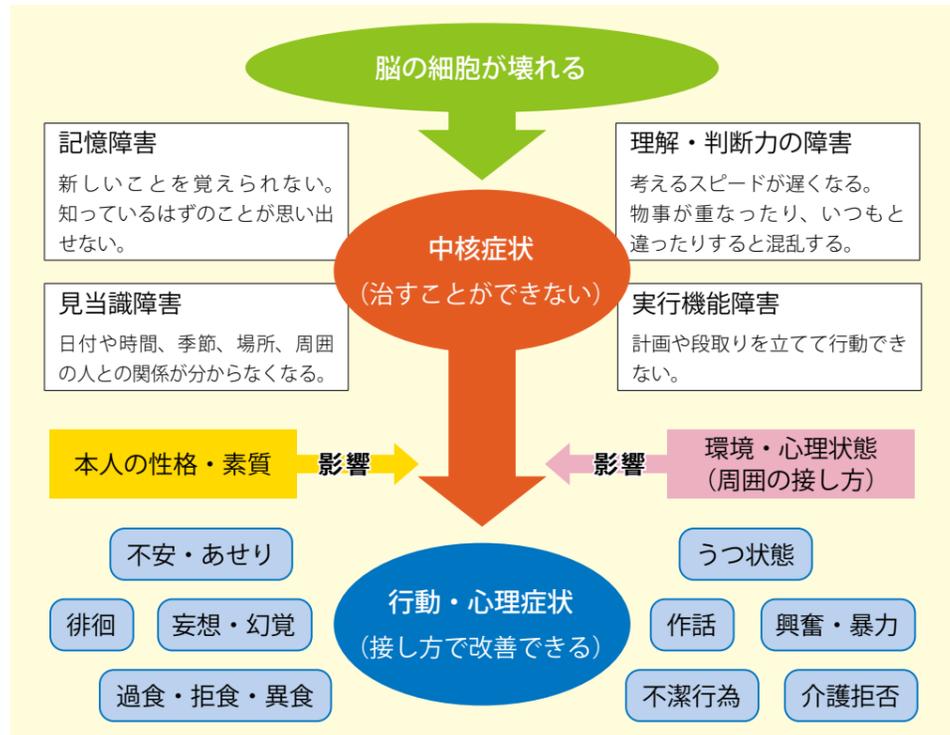
◎認知症とは

脳で起こるさまざまな原因で脳の機能が低下することにより、記憶や判断力などの認知機能に障害が生じ、日常生活に支障が出ている状態をいいます。また、主な分類として、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、血管性認知症の3つがあります。この中で発症者が一番多いのがアルツハイマー型認知症です。

◎認知症の症状

認知症の種類によって症状や進行の度合いはさまざまですが、大きく分けると「中核症状」と「行動・心理症状」の2つに区分されます。中核症状は、脳の細胞が壊れることによって直接起こる症状で、完全に治すことはできません。

これに対し、行動・心理症状は、本人の性格や環境、人間関係などの要因が絡み合っ起る精神症状や不可解とされる日常生活での行動のことをいいます。行動・心理症状は、周囲の接し方によって症状が改善することもあれば悪化もするともあるといわれています。

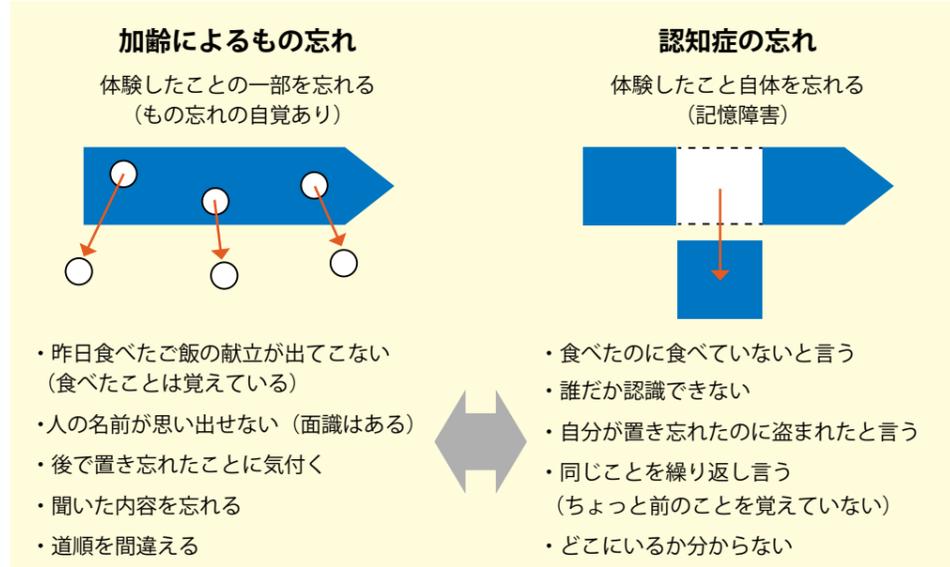


◎本人の気持ちに寄り添う

「認知症になったら何もわからなくなる」「認知症の人は自覚がない」というのは大きな間違いです。認知症の人自身も自分の変化を感じ取り、苦しんだり悩んだりして、不安

な気持ちを抱えています。認知症になった人の本当の気持ちを理解することは容易ではありません。しかし、認知症の人の気持ちに寄り添い、温かく見守り、さりげなく自然に接することができれば、認

知症の人でも自分らしく安心して暮らし続けることができる社会の実現につながります。そのためには、どのように認知症の人と接していけばよいでしょうか。



認知症になっても心は生きている

認知症の人とその家族との接し方

背景にある気持ちを理解する

認知症の人だからといって、付き合い方を基本的に変える必要はありません。しかし、認知症の人には、認知症への正しい理解に基づく対応が必要になります。

例えば、体験したこと自体を忘れてしまう認知症のものを忘れを自分のこととして想像してみると、相手の気持ちも見えてくるのではないのでしょうか。

認知症になっても同じように喜怒哀楽の感情があり、接し方によって相手の反応も大きく変わってきます。一見すると、不可解と思えるような行動にも何か理由があるということを理解し、相手の気持ちを考え接することが大切です。

「正しい・正しくない」ではなく、「どうしたら円滑・円満に物事が運ぶか」を優先して接することにより、安心感や一体感が生まれ、相手とのよりよい信頼関係を築くことができます。

認知症の人を介護する家族の気持ちを理解する

認知症の人を介護している家族は、悩みを打ち明けられずに頑張り過ぎて気持ちにゆとりがなくなったり、「近所に迷惑をかけているのでは…」との思いを抱いたりします。認知症の人と同様に、認知症介護をしている家族の気持ちを少しでも理解するように努め、「困ったときはお互いさま」の精神で接することも大切です。

認知症の人への対応の心得

◎ 3つの“ない”

1. 驚かせない
2. 急がせない
3. 自尊心を傷つけない

地域における認知症支援ネットワーク構築の要

認知症地域支援推進員に聞く

「認知症地域支援推進員」として活動するにしろいづ地域包括支援センターの鈴木朋美さんに、その役割や認知症の人との接し方のポイントについて伺いました。

■認知症地域支援推進員とはどのようなことをしている人ですか？

認知症の人やその家族の相談に応じ、医療や介護サービスなどへつなげる役割を担っています。

また、認知症の理解を地域に広めるため、認知症サポーター養成講座



鈴木 朋美 さん

認知症地域支援推進員

の開催、認知症ケアパスの作成・普及啓発、オレンジカフェ（認知症カフェ）の企画運営といった活動を行っています。

■認知症について、どのような相談が寄せられていますか？

本人からは自分自身が感じている不安、家族からは生活をする上で支障となるような本人の行動や介護の負担、地域からは日頃の付き合いで気になった様子などといった相談が寄せられています。

■認知症の方と関わる中で感じていることは？

認知症があっても、その人が積み重ねてきた人生の中で知っていることや得意としていることも多いです。そのため、人生の先輩として学ぶことが多くあります。

■認知症の人を支援する上で心掛けていることは？

認知症だからといって特別視せず、一人の人として接することを心掛けています。

その人の気持ちを受け止め、少しでも気持ちが軽くなり、前向きになってもらえるとうれしくなります。

また、介護サービスをうまく活用していただき、認知症の人と認知症の人を支える家族が、安心して心豊かに生活できるようにするための橋渡し役になれたらと思います。

■認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに向けて伝えたいことは？

認知症になったからといって、その人が歩んできた人生そのものが消えてなくなることはありません。地域の人は、日頃からのふれあいを通してお互いをよく知っているからこそ、認知症を正しく理解し、その人らしさが発揮できるよう、変わることなく接してほしいと思います。また、認知症の人を支える家族にも目を向け、温かく接することで、本人だけでなく家族も安心して暮らせる地域になると思います。

認知症になり、忘れることが多く、失敗続きで自信をなくしている

否定したり、決めつけたりせずに、「大丈夫だよ」と理解してあげる

症状が改善したり、進行がゆるやかになったりする

「何やってるの!」「いつも失敗ばかりして!」と責め立てる

自尊心が傷つき、ますます自信を失い、言い争いが増える

症状が悪化し、急速に進む



オレンジカフェ

認知症の人や家族だけでなく、地域の人でも気軽に参加できるお茶飲みの場です。会話や交流をしながらつろぐことで気持ちを軽くする効果があり、認知症や介護について専門職と相談をすることもできます。



▶ オレンジ色のほりが目印!



▲ 7月30日に開催されたオレンジカフェの様子

認知症キャラバンメイトに聞く

町では、認知症の人やその家族が地域で安心して暮らせるよう、地域の人々が認知症について正しく理解し、温かい目で見守り支える体制を作る取り組みを進めています。

その中心となるのが、認知症サポーター養成講座の講師役となる「認知症キャラバンメイト」で、資格を持つ人の中から25名でキャラバンメイト連絡会を組織して、講座の計画立案や勉強会を行っています。

今回は、その一人である小野木さよ子さんに、キャラバンメイトや認知症と地域のことについて伺いました。



認知症キャラバンメイト
小野木 さよ子 さん

■認知症キャラバンメイトになったきっかけは？

9年前に誘われてキャラバンメイト養成研修を受けた時に、認知症の実態を知り、地域ぐるみで支え合うことの大切さを感じ、何かできればと思い引き受けました。

■町の現状をどのように捉えていますか？

高齢化が進み、支援する家族も高齢となっています。また、一人暮らし高齢者も増えており、早い段階で認知症に気付くことが難しくなってきたと感じています。

■キャラバンメイトとして心がけていることは？

認知症に対する誤解や思い込みをなくし、症状への理解を深めてもらえるよう、分かりやすい説明を心がけています。

■認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに大切なことは？

多くの人に認知症について正しく知ってもらうことが何より大事かと思っています。その方法の一つが「認知

症サポーター養成講座」です。機会があればぜひ参加して、地域で支える力になっていただきたいと思います。

■今後の抱負を聞かせてください。

自分も母が認知症になり、周りの皆さんの見守りや声掛けで助けられた一人です。自分の体験を通して、地域で支え合うことの大切さが伝わるよう活動していきたいです。

一人でも多くの方が良き理解者に 認知症サポーターになって身近な人を支えよう

「認知症サポーター」は、認知症についての正しい知識や対応の仕方について学び、地域の中で認知症の人やその家族を温かく見守る応援者です。

町では、小学生から地域の高齢者まで幅広い年代を対象に認知症サポーター養成講座を開催してサポーター養成に取り組んでおり、これまでに3,272名が受講しています。昨年度からは、講座を受講した小学生から保護者や家族に学んだことを伝えてもらい、認知症の高齢者と接する機会の多い働き盛り世代の理解を深める取り組みを行っています。

その取り組みの中から、西会津小学校6年生とその家族から寄せられた感想の一部を紹介します。

認知症サポーター養成講座を受講した児童の感想

- ・若い人でも認知症になるということが分かりました。また、周囲の人の対応によって認知症が悪化することがあるので、やさしく接することが大切ということが分かりました。
- ・認知症の方も普通の人と共通点が多くあってびっくりした。認知症の方だけでなく、困っている人がいたら助けてあげようと思った。
- ・いろいろなことができなくなっても、心は変わらない同じ人間なので、相手の気持ちを傷つけないようにしたいです。

大人の人に伝えたいこと

- ・認知症の方に強く怒り顔で話さないで、やさしく相手にわかりやすく伝えるように心がけてほしいです。
- ・認知症は誰にだってなる病気なので、自分が認知症になったらどう思うか考えながら認知症の人をやさしく、ゆっくり話して接してほしいです。



▲ 西小で開催した講座の様子

児童から話を聞いた家族の感想

- ・認知症の人が身近にいるので、子供の話を聞いて学ぶこと、反省することがあり、とても勉強になりました。周りの接し方で症状や進行が変わることを自分の周りの人にも伝えて、認知症の理解を深めていきたいと思いました。
- ・認知症について漠然と物忘れしてしまう病気かな？くらいの知識しかなかったので、これを機に子どもと一緒に認知症のことを学んでみようと思います。
- ・今まで出来ていたことができなくなり、自分が自分でなくなっていくような感覚はとても恐いことだと思います。家族や周囲の人が認知症の人の気持ちになって、その人のペースに合わせて優しく接することが大事だと思いました。

認知症に関する相談は、にしあいづ地域包括支援センター ☎ 45-3327 まで

西会津町認知症支援ガイドを改訂しました

町では、にしあいづ地域包括支援センターの協力を得て、認知症の症状や進行の度合いに応じて、「いつ」「どこで」「どのような」相談や支援を受ければよいか、窓口となる機関や支援内容を分かりやすく冊子にまとめた認知症支援ガイド（ケアパス）改訂版を作成し、今年4月に町内全戸に配布しました。

にしあいづ地域包括支援センターでは、サロンなど地域に出向いて認知症支援ガイドの活用方法について説明会を開いています。



▲ サロンでの説明会の様子
◀ 西会津町認知症支援ガイド



色鮮やかな短冊が夜空に舞う 常楽寺で七夕ライトアップ

8月6日から8日にかけて、常楽寺（野沢）で町商工会青年部の皆さんによる七夕飾りのライトアップが行われました。会場では、子どもたちが願い事を書いた色とりどりの短冊や、人気キャラクターなどの七夕飾りが夜風に舞う姿が、風情ある夕涼みを演出していました。

また、7日の夜には常楽寺の住職らによって悪疫退散を祈念する特別祈祷も行われ、先着100人の来場者にお礼がプレゼントされました。

夏の風物詩！上手に割れたかな？ こゆりこども園でスイカ割り

8月3日、こゆりこども園で夏ならではの行事であるスイカ割りが行われました。

スイカを割るのはひまわり組（年長）の園児で、目隠しで見えないスイカの位置を、応援する他の園児や先生の声を頼りに近づき、勢いよく棒を振り下ろしていました。最終的にスイカにはヒビが入り、今年も大盛り上がりでスイカ割りを終えました。

その後、テラスに移動した園児たちは、みずみずしいスイカを美味しくそうに頬張っていました。



町での開催は今シーズン3試合目 福島レッドホープス公式戦を開催

ルートインBCリーグ公式戦福島レッドホープス対新潟アルビレックスが福島レッドホープス西会津球場で7月31日に開催されました。

試合は1回裏にホープスが連続タイムリーヒットで2点を先制し、4回裏にも1点を加えるなどホープスのリードで展開しました。先発した若松駿太投手も8回まで1失点と好投しましたが、完投勝利も見え始めた9回表に相手打線につかまり、後続の投手も打たれたため、5点を失いました。逆転を狙った9回裏でしたが、ホープス打線は三者凡退に倒れ、3対6で敗れました。



▲先発した若松駿太投手（写真左）と、4回裏に追加点となる犠飛を打った幸田風揮選手（写真右）



新鮮な採れたて野菜がたくさん ミネラル野菜お盆セール

8月11日、12日に道の駅にしあいづで西会津ミネラル野菜お盆セールが開催され、新鮮な西会津産ミネラル野菜を求め、多くの買い物客が訪れました。お盆セールにしあいづ健康ミネラル野菜普及会の皆さんが主催し、当日は会員の皆さんが手塩にかけて作った野菜たちが店先に並びました。

同時に、よりっせかっぱ祭りとしてキュウリの詰め放題も行われ、会場は賑わいを見せました。



▲川崎自動車工業で検査作業を体験する生徒（提供：西会津高校）

働くことの意義や職業適性を考える 西高生が町内で就労体験

学校とは異なる環境に身を置くことで、視野を広げ将来のキャリア形成に役立てることを目的として、西会津高校2年生4人が就労体験活動を行いました。

1日目の7月27日、生徒たちは町役場、川崎自動車工業、会津きのこ工房、やまみみ製菓所を見学し、さまざまな仕事に触れることができました。翌28日は、町役場と川崎自動車工業に分かれ、公共施設などの見学や製品の検査作業などを体験しました。

登山シーズン、到来！ 飯豊山弥平四郎登山口で山開き

日本百名山のひとつである飯豊山の弥平四郎登山口の山開きが、7月21日に行われました。飯豊山弥平四郎登山口は、比較的緩やかなコースであるため登山愛好家の間でも人気のコースです。

この日は、関係者や地域住民の皆さんなど約20人が参加し、安全祈願祭を行いました。山開きにあたり、大竹享副町長が「町のシンボルである飯豊山のPRを図り、安全な登山シーズンとなるよう祈念します」とあいさつしました。



西中図書館 新刊オススメ本



『なんでも自分で修理する本 道具と素材の図鑑』
[片桐雅量 著] 宝島社

「DIY」とは、《do-it-yourself》の略で、プロに頼まず、自らの手で家屋や身の回りの物などを使いやすいように作り替えたり、修理したり、生活を美しく飾るものを作ったりすることです。

コロナ禍で在宅時間が増えたため、お金をかけず、趣味としても楽しく満足感を得られるDIYにハマる人も多そうです。

この本は、工具の活用法などがイラストでわかりやすく説明されています。ホームセンターの売り場で必要なものを確実に入手し、120%活用するための実践テクニックが満載のDIY入門者必携のハンドブックです。



『野菜をすんごくおいしく食べるレシピ』
[元気ママ 著] KADOKAWA



『琥珀の夏』
[辻村深月 著] 文藝春秋



『黒牢城』
[米澤穂信 著] 角川書店

『ヒトコブラクダ層ゼット 上下巻』
[万城目学 著] 幻冬舎



町民ギャラリー 出ヶ原和紙作り講座

町公民館では、地域文化を再生し、和紙の新たな可能性の発見を目的とした「出ヶ原和紙作り講座」を昨年度から開催しています。前月号に続き、本講座に参加した皆さんが自分で漉いた出ヶ原和紙を使って作成した作品を紹介します。

今日は、佐藤千枝さん（出ヶ原）の作品です。

作品によせて…

- ① 切り絵…カスミソウや椿の皮を入れて漉いた和紙を切り絵にしました。会津木綿ともコラボしてみました。
- ② 桜の花…漉いた和紙で花を作り、絵の具で桜色に塗りました。



私は出ヶ原で生まれ育ったのですが、和紙の作り方を全然知りませんでした。昔の和紙作りは冬に行い大変だったことを伯母から聞いています。伯母は今も元気な95歳で、当時の出ヶ原和紙を作った最後の人です。昔の人のことを考えながら、今後も和紙作りをしていきたいと思います。

暑さに負けず、楽しくプレー！

町民グラウンドゴルフ大会を開催

8月7日、さゆり公園多目的広場で町青少年健全育成町民会議、町公民館、町体育協会主催による第24回町民グラウンドゴルフ大会が開催され、小学生7名を含む総勢57人が参加しました。

グラウンドゴルフは、全16ホールの合計打数により順位を競う競技で、老若男女誰でも気軽にできるニュースポーツとして人気が高く、町公民館でもいろいろな講座に取り入れられています。

今回は日差しの強い炎天下の中での大会になりましたが、参加者は16のグループに分かれて、汗をかきながら優勝を目指して各ホールを回りました。

また、小学生がいるグループでは、ベテランの参加者がスティックの握り方やボールの打ち方などを丁寧に指導している姿も見受けられ、世代を超えた交流も行われた充実した大会となりました。

◎大会結果〈敬称略〉

【一般の部】

- 優勝 佐藤 和子（上野尻）
- 第2位 荒海 孝子（さゆりが丘）
- 第3位 武藤 昌一（柴崎）

【小学生の部】

- 優勝 築田 海斗（西小6年）
- 第2位 渡部 陽成（西小6年）
- 第3位 福井 響（西小4年）





◆町議会定例会
 生放送 午前10時
 再放送 午後6時
 ※放送時間が変更になる場合があります。

◆マイビデオ募集中!
 秋の行楽や行事など、皆さんが撮影したビデオをお待ちしています。

◆ケーブルテレビ さゆりチャンネル 9月の放送案内

◆お問い合わせ先
 (一社)西会津ケーブルネット
 ☎45-4461

お知らせ
INFORMATION

**西会津産米を使った新商品を開発
 西会津アイス 好評発売中**

町では、西会津産米のブランド化を図っていくため、本年度より農林水産省の農山漁村振興交付金を活用して米に特化した新たな商品開発に取り組んでいます。その第1弾として、株式会社BEAT ICE（神奈川県）と連携し、「西会津アイス」を開発しました。



このアイスの発売を記念して、8月14日に道の駅にしあいづで試食会が開催され、先着50人の来場者にアイスが振る舞われました。

西会津アイスは、町内で作られた米を原料とした甘酒を加工し、ココナッツミルクと合わせることで米本来の優しい甘さが引き立つアイスクリームに仕上がっています。価格は1個380円(税込)で、町内飲食店の一部で提供するほか、道の駅にしあいづなどで販売中です。

**出合いからアフターフォローまで一貫した支援を検討
 西会津町後継者対策実行委員会を組織**

出合いから結婚へ進展を図る事業を効果的に実践するため、昨年度組織された西会津町後継者対策協議会が提案した事業を企画・運営していくことを目的に、新たに西会津町後継者対策実行委員会を組織しました。



8月4日には第1回目の会議が開かれ、昨年度の協議会委員を中心に10人を委員に委嘱しました。この日は、これまでの協議会での取り組みや今後の事業内容などについて意見交換を行いました。

**宝くじの社会貢献広報事業
 コミュニティ助成事業で各集会所にエアコンを整備**

下小屋11町内会、中野区、森野自治区、西林自治区、上小島自治区、屋敷自治区、梨平自治区では、本年度の一般財団法人自治総合センターのコミュニティ助成事業により、各集会所で使用するエアコンを整備しました。



コミュニティ助成事業は、地域社会の発展と住民福祉の向上などを目的に「宝くじの社会貢献広報事業」として宝くじの受託事業収入を財源に実施されています。

〈問い合わせ先〉 企画情報課 企画政策係 ☎45-4536

以下は有料広告です。詳細は広告主に問い合わせください。

**健康増進課
 健康支援係** ☎45-4532

有料広告を募集しています
 紙面に掲載する有料広告を募集しています。詳しくはお問い合わせください。

- ◆大きさ 1枠当たり縦4.0cm×横8.5cm
- ◆掲載料 1枠当たり5,000円/月

〈問い合わせ先〉
 企画情報課 広報広聴係 ☎45-4536

◆非農地証明書の発行について

町農業委員会では、既に森林原野化している農地について、所有者からの申出があれば、所有者立会いのもと調査を実施し、非農地と議決した

◆使用期限
 令和3年4月1日時点で町に住民票がある人

◆対象者
 令和3年4月1日時点で町に住民票がある人

◆お問い合わせ先
 商工観光課 商工観光係
 ☎45-2213

**西会津町消費
 回復商品券の
 使用期限について**

町では商品券の第3弾として、今年5月に町民一人あたり5000円の商品券を配付しました。本商品券は使用期限が過ぎると使用できなくなります。まだ使用していない場合は早めに使用ください。

◆お問い合わせ先
 町農業委員会事務局
 ☎45-4531

**米のモニタリング
 検査に伴う出荷・
 販売自粛のお願い**

今年度も、米のモニタリング検査を実施します。検査は、旧市町村ごとに実施しますので、結果が判明するまでは米の出荷・販売・無償譲渡などを控えるようお願いいたします。なお、検査結果は県ホームページのほか、ケーブルテレビでも随時更新します。

◆お問い合わせ先
 農林振興課 農政係
 ☎45-4531

**米のモニタリング
 検査に伴う出荷・
 販売自粛のお願い**

詳しくは、近くの農業委員、農地利用最適化推進委員または、町農業委員会事務局まで問い合わせください。

◆お問い合わせ先
 町農業委員会事務局
 ☎45-4531

**9月1日から
 「子宮頸がん施設検診」
 が始まります**

子宮頸がん施設検診を9月1日から開始します。検診申込者は忘れずに受診してください。

実施医療機関は右表のとおりです。まだ申し込んでいない人で、これから受診を希望する場合は下記まで問い合わせください。

市町村	医療機関	電話予約連絡先
会津若松	舟田クリニック産科婦人科	☎0242-23-1103
	なるせとみこレディースクリニック	☎ // -37-7851
	竹田総合病院 ※予約が必要です	☎ // -27-5511
	会津中央病院	☎ // -25-1525
	あみウイメンズクリニック	☎ // -37-1456
喜多方	おのぎレディースクリニック	☎ // -36-5051
	山田産婦人科医院	☎0241-22-3032
会津坂下	ゆうゆうクリニック	☎ // -22-2111
	坂下厚生総合病院	☎0242-83-3511

※実施期間は9月1日～12月23日までです。
 ※受診の際は、健康保険証と健康づくり協力員（旧名称 保健指導員）より配付されている受診券を持参してください。
 ※子宮体がんの検診対象になった場合、その検査料は自己負担になります。



スマートフォン教室 参加者募集



◎はじめてのスマホ体験教室

1人1台ずつ用意したスマホを実際に使って、携帯電話との違いやスマホでどんなことができるのかなどを体験できます。

◆対象者：スマートフォンを所持していない人で、2日間とも参加できる人

◆定員：各会場 10名（先着受付順）

◎初心者向けスマホ教室

スマホ初心者向けにLINEの使い方やインターネットの使い方などの基本操作を学びます。自分のスマホで教室に参加してもらいます。

◆対象者：スマホを所持している人で、2日間とも参加できる人

◆定員：各会場 10名（先着受付順）

◆各日程と会場 ※参加費は無料ですが、事前に申込みが必要です

種類	日程	時間	会場
はじめてのスマホ教室	10月7日(木)	午前10時~12時	奥川みらい交流館
	10月8日(金)		
	10月19日(火)		町公民館
	10月20日(水)		
初心者向けスマホ教室	10月7日(木)	午後1時~3時	奥川みらい交流館
	10月8日(金)	午後1時~4時	
	10月19日(火)	午後1時~3時	町公民館
	10月20日(水)	午後1時~4時	

※11月も同様に
・町役場
・新郷連絡所
での開催を予定しています。



申込期間
9月9日(木)~17日(金)
午前10時~午後5時

主催：西会津町企画情報課、(株)エヌ・エス・シー
〈参加申込・問い合わせ先〉
(株)エヌ・エス・シー ☎0242-23-7771

「所有者」とは…
 広告が表示される建築物などの物件を所有している者
「占有者」とは…
 広告が表示される建築物や工作物などの支配権を有し、実際に使用収益している者

令和3年7月1日より福島県屋外広告物条例等が改正されました。このため、次に記載された広告物以外の広告物は、全て安全点検および広告物の許可期間を更新する場合一、点検結果の報告が義務化となりましたので、注意してください。

◆点検義務のない広告物
 はり紙、立看板、広告旗、広告幕、自動車または電車に表示する広告物、建物の外壁面に描画により表示する広告物、法令による広告、選挙運動用広告、公益施設寄贈者名広告、公共広告（一部抜粋）

◎管理義務者の明確化
 併せて管理義務のある者の範囲が明確化されました。今までは表示者、設置者、管理者が管理義務のある者でしたが、新たに「所有者」と「占有者」が追加されました。二者については次のとおりです。

県屋外広告物条例等が改正されました

9月1日(水)~10日(金)は屋外広告物適正化旬間です。近年、老朽化などによる屋外広告物の落下の事故が発生しており、全国的に屋外広告物の安全性の確保が問題となっており、屋外広告物の安全対策を推進するために、管理義務のある者による適切な点検が必要不可欠です。旬間に屋外広告物の点検をしてみましょう。

◆問い合わせ先
 県都市計画課
 ☎024-521-7508

屋外広告物適正化旬間のお知らせ



児童生徒の英語検定料を補助します！

町では、子どもたちの英語力向上と主体的な学びを応援します！補助を活用して、英語検定にチャレンジしてみませんか？

＜対象者＞

- ・西会津小・中学校に在籍する児童生徒
- ・町内に住所があり、町外の小・中学校に在籍している児童生徒
- ※小学生は5・6年生のみ。

＜補助金額＞

日本英語検定協会が定める検定料を全額補助します（補助金の申請は年度ごと1回まで）。

【参考】西会津中学校での試験日
10月1日(金)、令和4年1月21日(金)

＜注意事項＞

- ・対象者によって必要書類が異なります。必要書類や申請の流れなどの詳細は町学校教育課まで問い合わせください。
- ・英語検定は各自で申し込んでください。
- ・受験日や受験会場は問いません。町内の学校以外で受験した場合も補助対象となります。

＜問い合わせ先＞

学校教育課 学校支援係 ☎45-2216

除草作業を支援します

町では、自治区で行う生活道路の除草作業に対し、次のような支援を実施しています。いずれも申請が必要となりますので、詳しくは左記まで問い合わせください。

◆支援内容

- トラクター装着型草刈り機の無償貸与
- 自走式草刈り機の無償貸与
- 草刈り機械用混合油などの無償交付（1回10リットル・年2回まで）

建設水道課 管理係
☎45-4530



◀トラクター装着型



▶自走式草刈り機

秋の農作業事故に注意しましょう

コンバインなどで農作業を行う際は、事故に十分注意してください。事故は農作業機械を使用する際の不注意や、操作の誤りが原因で発生しています。

ゆとりある計画的な作業を心掛け、事故防止に努めましょう。

◆時間や気持ちに余裕を持ち次の点に注意しましょう

- 安全確認を行い、誤操作を起さないよう注意を払い作業する
- 機械の点検は必ずエンジンを停止してから行う
- 道路を走行する際は安全な速度で移動する
- ほ場への進入、脱出時、畦越え時は特に注意する
- 一人での作業は避け、複数人で作業する

農林振興課 農政係
☎45-4531



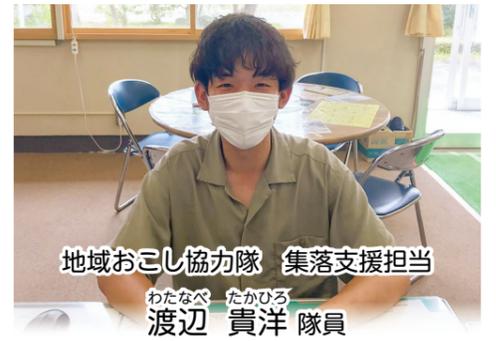
以下は有料広告です。詳細は広告主に問い合わせください。

有料広告を募集しています

紙面に掲載する有料広告を募集しています。詳しくはお問い合わせください。

- ◆大きさ 1枠当たり縦4.0cm×横8.5cm
- ◆掲載料 1枠当たり5,000円/月

〈問い合わせ先〉
 企画情報課 広報広聴係 ☎45-4536



皆さんこんにちは！
地域おこし協力隊の渡辺です。
今月の集落支援だよりでは、集落の共同作業について紹介します。

熱中症に注意！

集落を訪問すると、田畑仕事やお茶飲み歩きをする姿が目に残ります。地域の元気は個人が元気にしているからこそだと思えます。自分の好きなことを続けることや、近所と楽しく話すことは元気の源だと思えます。
ただ、今年の夏も茹だるような暑さが続いています。暑さも益までと聞きますが、秋の知らせはまだ聞こえてきません。

今年も新型コロナウイルス感染症予防対策のため、マスクを着用する頻度が多くなっています。屋外だけでなく屋内でも熱中症になることがありますので、無理をせず水分補給や休憩をこまめに取るように心がけましょう。

夏の草刈り

草木の成長は早いもので、あつという間に青々と伸びてしまします。奥川地区の集落支援拠点施設の周りもうっそうと生い茂り、先日草刈りを行いました。集落の皆さんが慣れた手つきで草刈り機を使い、草を刈る姿を見ていると、きれいに刈るコツをつかみたいと憧れてしまします。夏になると、各集落で草刈りやクリーンアップ活動があります。今年は、中町集落と重点集落のひとつである大舟沢集落の人足に参加しました。特に大舟沢集落では、人が少ないとできることが限られてきてしまうと実感しました。集落の負担を減らし、ポ



大舟沢集落での人足



中町集落での人足

ランティアの協力などをお願いしながら維持していくことが必要かもしれません。

中町集落では、町内にいる地域おこし協力隊や滞在アーティストなどに声をかけ、ボランティアを募りました。日差しが照りつける暑い中で作業を行いました。若い人が来ると高齢者が多い集落の皆さんも嬉しそうでした。また人手も多く、予定より早く終えることができ、集落の皆さんも喜んでいました。

コロナ禍の影響

皆さんは、今年のお盆はどのように過ごされましたか？ 帰省の自粛により、町外にいる家族になかなか会えていない人もいるかと思えます。県内でも新型コロナウイルス感染症の感染者が急増しており、まだまだ収まる心配がありません。

県をまたぐ移動の自粛のため、武蔵野美術大学生らによる地域活動も延期を余儀なくされました。また、8月18日に開催を予定していた極入集落の大聖歓喜天は中止となり、2年続けて開催できなかったことはとても残念です。なかなか思うようにいかないことが多く、新型コロナウイルスが各活動にもたらす影響は計り知れません。
町では、順次、新型コロナウイルスワクチン接種が実施されています。一日でも早く安心して活動できる日が来ることを願っています。

がん治療と就労・社会参加の両立を応援！
がん治療サポート事業について

抗がん剤をはじめとする薬物療法による脱毛などの副作用や、外科治療による傷などがもたらすストレスを軽減するため「ピアランスケア」がここ数年で注目されています。
今月は、現代のがん治療には欠かせないものになりつつあるピアランスケアについて紹介します。

ピアランスケアとは

ピアランスは「外見」ケアは「気にかける・手入れする」という意味があります。直訳すると「外見を気にかけ手入れする」という意味になります。

ピアランスケアは、国立がん研究センター中央病院のチームが作成した言葉で、「医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケア」と定義しています。これは単に前の状態に戻すのではなく、自分らしく生きるため、外見とともに環境や本人



の気持ちを整えるサポートをすることです。

治療により外見が変化しても、気にならなければピアランスケアを行わなくても問題ありません。しかし、外見が変化することで「周りの人からどう思われているか気にな



▲かつら（ウィッグ）

なる「自分らしさがなくなつたような気がする」「治療をする気になれない」などと思うことがあれば、かかりつけの病院に相談してみましよう。

西会津町がん治療サポート事業とは

今年4月から抗がん剤治療等による副作用のため、かつら（ウィッグ）が必要になった人、乳がん治療に伴い乳房を切除し補整具を必要とする人の経済的な負担を軽減し、就労や社会参加を応援することを目的とした助成事業がスタートしました。

《町がん治療サポート事業》

◆助成金額

・かつら（ウィッグ）
上限2万円

※全頭用かつらに限る。

・乳房補整具

左右それぞれで上限1万円
※補整具パッドまたは装着型人工乳房に限る。

◆申請に必要な書類

- ① 申請書
 - ② がん治療を受けたことが確認できるもの
 - ③ かつら（ウィッグ）や乳房補整具を購入したことが確認できるもの
- ※①は健康増進課窓口にあります。②は診断書や治療計画書の写しで対応できます。

福島県ピアランスケア助成事業も申請可能

県でも、昨年度からがん患者の経済的な負担を軽減するため、同様の助成事業を行っています。町の助成と両方申請できますので、併せて利用ください。

すごいな！むし歯のない子



うたの 田口 詩乃ちゃん (中町)
ゆうま 渡部 佑真くん (さゆりが丘)
ゆはね 赤城 由羽ちゃん (松尾)
れい 薄 玲衣ちゃん (9町内2)

7月15日、3歳児8人を対象に健康診査を行った結果、4人にむし歯がありませんでした。

《申請・問い合わせ先》
町がん治療サポート事業
町健康増進課 健康支援係
☎ 45-4532
県ピアランスケア助成事業
県地域医療課
☎ 024-521-7221

戸籍の窓口

(7月受付分)

■ まちの人口

	8月1日現在	(前月比)
人口	5,894人	(- 1人)
男	2,858人	(- 6人)
女	3,036人	(+ 5人)
世帯	2,563世帯	(+ 4世帯)

■ お誕生おめでとう

佐藤 由菜ちゃん 孝哉・舞子 芝草

猪俣 玲那ちゃん 秀平・忍 西林東

田澤 ゆめちゃん 孝学・博美 呼賀

■ お悔やみ申し上げます

齋藤 信子 (98)	薄 嬉 母	9町内2
長谷川 信彦 (96)	文男 父	松尾
薄上 陽子 (89)	信司 母	西林
佐藤 利博 (78)	学 父	上小島
齋藤 トミ (90)	勝夫 母	上小島
三留 信雄 (93)	栄一 父	青坂



松尾のひまわり畑 (8月11日撮影)

Dream

聞いて！わたしの夢



[3年・特設陸上部 部長]

は せ が わ ゆ ず き
長谷川 夢樹 さん

◆ 私の夢——

僕の将来の夢はまだ決まっていませんが、人の役に立つ職業に就きたいと思っています。人の役に立つ職業はたくさんありますが、僕はみんなが不自由ない生活を送ってもらえるような職業に就きたいです。

◆ 努力していること——

どの職業も勉強することが大事だと考えています。希望する職業の資格を取れるように今の勉強を頑張っています。

◆ 未来の自分に一言——

今努力していることや、頑張っていることはありますか？どんなことでも諦めずに頑張って、最後までやり抜いてください。

Person

町民バトンタッチ

さかもと こ
坂本 サツ子 さん [西林]

◆ 趣味は？

美味しい物を食べる、映画鑑賞(特にアクション系)

◆ 特技は？

まだ逆立ちして歩くことができること

◆ 熱中していることは？

美味しいコーヒーを飲むこと

◆ 自分を一言で表現すると？

元気な笑顔

◆ あなたのモットーは？

人を思いやる気持ち

◆ 最近感動したことは？

4歳の孫が自転車に乗れるようになった

◆ これからやってみたいことは？

旅行(変わった景色を見たり、美味しい物を食べたり)

◆ 次の方を紹介してください

J・Fさん



とっておきの物は？

孫たちは私の一番の癒やしです。孫たちの写真をカレンダーにして家に飾って、いつも眺めて癒やされています。



松崎好也さん(8月号)
からメッセージ

料理がとても上手で美味しいです。これからもヨロシク!!



Column

協力隊リレーコラム

出ヶ原和紙を作ります!!

はじめまして。今年5月から地域おこし協力隊の出ヶ原和紙担当になりました、大山栞那です。大学では、木版画を専攻していました。初めて手漉き和紙を見た時に、和紙があまりにも綺麗で、完成された作品のように感じました。それ以来、私も和紙を作りたい!と思うようになり、昨年10月に和紙のことを知るために、西会津町を訪れました。

出ヶ原和紙は、美しい自然の中で、原料となる楮こうぞの刈り取りから、全ての工程を人の手で行います。その時、自分で作った和紙がとても愛おしく感じて、すっかりとりこになり、今は出ヶ原和紙を後世まで残し伝えていきたいと思っています。

これから、先輩隊員や和紙作りに協力してくださる町民の皆さんと一緒に、さらに多くの人に、出ヶ原和紙と美しい西会津町の魅力を伝えていきたいです。よろしくお願ひします。



おおやま かな
大山 栞那 隊員

宮城県出身。東京造形大学絵画専攻版表現卒業。水性木版(版画の一種)で絵を描く活動を行っている。

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その53

じざかい 地境の柿

J R尾登駅から喜多方市側へ約400m行った地点の磐越西線沿いに町の天然記念物に指定されている「地境の柿」があります。樹高約5m、幹周り約2.2mのマメガキで、秋には直径2cmほどの小さな柿がたくさん実ります。

この柿の木は生えている場所の字名「地境」からも分かるように、永禄の頃(1558～1570年)、喜多方市高郷町夏井の赤城氏と上小島に居館があったとされる成田氏の領地の境目に目印として植えられたものと伝えられています。この言い伝えが正しいとなると、樹齢は約450～460年ということになります。

この頃の歴史的出来事として、天正6年(1578)に野沢の大槻太郎左衛門政通が会津領主芦名盛氏に対し反乱を起こし、成田氏、赤城氏とも大槻氏に味方しましたが、赤城氏はやがて反旗を翻し、芦名氏のもとに走ることとなりました。

その後、近代になってから、この柿には鉄道敷設と県道工事の時に2度伐採の話が持ち上がりました。しかし、由緒ある柿の木を惜しみ、所有者や地元の人たちが保存を望んで力強い運動を起こしたことにより、伐採を免れたという歴史もあります。

今は主幹の大部分が空洞化し、樹皮も瘤化していますが、強靱な生命力で長い風雪に耐え抜き、風格に満ちたまれに見るマメガキの古木で、貴重な文化遺産と言えます。



地境の柿

今月の表紙

今月は、8月6日から3日間に行われた常楽寺での七夕ライトアップより。このイベントには、2年続けて中止となってしまった歴史ある七夕まつりを、違う形で将来へ繋いでいこうという町商工会青年部の皆さんの思いが込められています。

(11ページに関連記事)

編集後記

57年ぶりに開催された東京オリンピックで盛り上がった今年の夏。しかし、昨年引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、帰省等が自粛された寂しいお盆となりました。

今月号で取り上げる予定だった2年分の成人式も延期に。開催時期は未定ですが、開催された際には人生の節目を迎えた若い世代の皆さんの様子を、広報にしあいづで紙面いっぱいにお伝えしたいと思います。(秦)